

2009年度海外研修・研究等助成事業 研修報告

特別支援学級の児童も含めた数概念形成・算数の基礎
学力向上に向けた学習具・教材・授業についての研修

静岡県沼津市立今沢小学校 教諭 生田 佳澄

2007年度に続き、2度目の助成を受け研究を展開できる機会を得た。今回は、外国人児童の学習支援担当の立場から、公立学校に在籍する外国人児童に対する帰国後にもつながる学習支援の在り方を研修できた。

今年度は、特別支援学級の担任をする立場から、本研修を更に深めていく視点を得た。特別支援を要する外国人児童が次年度より本市内の学校に初めて入学するにあたり、理解者の一人となりたいため、現地ペルーにおける特別支援学校の教育実態を知り、支援に生かしたい思いがあった。また、前回の研修で立ち上がった TANOSHIKAI (公立校教員による日・ペルー児童算数研究会) のメンバーとメール等で意見交換し学習教材を作成していたものの、直接授業実践を通し具体的に検討し合う中で、教材開発の質を高めていきたいという思いもあった。ねらいとする教材開発は、算数の基礎的な概念形成に関わるもので、両国を行き来する児童の学習のみならず、両国の特別支援学級の児童の学習教材や、ペルーの公立校でも共通して活用できるという視点を軸としている。そこで、授業をペルーの先生方と共同で実施することで、自分が帰国した後もペルーの先生方による授業改善の波及効果もねらった。本研修には個人では困難な関連諸機関との連絡が不可欠であったが、(財)企業経営研究所により、在日ペルー大使館・ペルー教育省・在ペルー日本大使館の協力を得た中での充実した研修ができた。具体的には、教育省・日本大使館訪問、教育省設定の教員養成校附属幼稚園の算数授業参観、附属小学校における算数公開授業実施、教員と教育学部学生

対象のセミナー開催、教育省設定の特別支援学校訪問、算数授業実施、教育省算数数学技術担当者向けセミナー実施、TANOSHIKAIメンバーの勤務する学校での公開授業、APEBEMOの依頼を受け貧困地域の学校での算数公開授業等実施できた。授業での児童の実態や現職教員との意見交換から、両国の多くの児童にとって楽しい算数的活動による数概念形成は、創造的知も算出するという新たな視点を得たことが私にとって最大の収穫であった。

帰国後、本研修の視点を活用する機会があった。今秋 JICA の南米地域算数研修に前述の TANOSHIKAI 代表 (ADRIANA BAZAN 教諭) もペルー国より研修員として選出され来日した。その際、他国の算数教師からの希望で、本研修で行ったセミナーを ADRIANA 教諭と共同開催した。私は、現職教員特別参加制度による文科省推薦青年海外協力隊派遣教員の帰国後還元活動として実施した。エクアドル・ボリビア・パラグアイの児童にも共通した数概念形成をねらった授業について先生方と意見交換する中、本研修の視点の意義を再認識した。今後も、授業等でより多くの児童に還元したい。本事業

の研修を受けた先生方の取り組みから多くのヒントを得たことに感謝すると共に、より多くの先生方に事業のすばらしさを伝えバトンを渡し感動を分かち合いたい。



算数担当技官対象会合 (教育省にて)